

9月に予定されているセンターのイベント情報や、
 その他のお知らせについてご案内します。

センターの木道がさらに長くなりました!!

センターに隣接する木道の延長工事が無事終了し、7月28日(日)に漫湖子どもエコクラブのメンバーと関係者によるオープニングセレモニーが行われました。延長された木道は今後、干潟の清掃活動やマングローブの管理など、漫湖の保全活動に活用されるほか、マングローブ林内の生きもの観察や野鳥観察など、気軽にご利用いただけます。ぜひこの機会に、一度足を運んでみてはいかがでしょうか?



漫湖みんなでミュージアム2013 作品募集!!

漫湖の自然や生きもの、観察会の様子や思い出を、子どもたちが生き活きと表現した楽しい作品を募集します。応募部門は、絵・写真・作文の3部門で、県内に住む3才～高校生まで誰でも応募できます。作品のテーマは「私たちの漫湖」です。応募期間は以下の通りです。たくさんのご応募お待ちしております。

■ 応募期間:2013年9月3日(火)～11月10日(日)

※「漫湖みんなでミュージアム2013」の詳細については、センターのホームページをご覧ください。

漫湖水鳥・湿地センターの改修工事が始まります。

今年で10周年を迎えた漫湖水鳥・湿地センターは古くなった展示物の更新や施設の省エネ化のため、一部で改修工事を行うことになりました。予定している工事期間は以下の通りです。

■ 工事期間：2013年9月1日～2014年3月30日 ※予定

これに伴い当センターでは、9月以降の団体受け入れをお断りさせていただきます。あらかじめご了承ください。

なお、個人での見学につきましては、工事の進捗状況を見ながら可能な限り受け入れを予定しています。その際、工事による臨時休館や開館時間の変更などについては、当センターのホームページにて随時ご案内させていただきますので、ご確認の上お問い合わせください。

皆様には大変ご迷惑をおかけ致しますが、何卒ご理解とご協力の程よろしく申し上げます。

Topic:

いきものファインダー

漫湖の風景

20



干潟の人気モノ、シオマネキ。

夏休みに突入し、センターのあちこちで子どもたちの声が響いている。木道では、干潟のカニを一生懸命親に説明する男の子の姿が微笑ましい。干潟のカニの中でも特に人気モノがシオマネキである。あの特徴的な大きなはさみと色鮮やかな体は、子どもたちの好奇心をくすぐるのか、自由研究のテーマにしている子もたくさんいる。

現在、漫湖で確認されているシオマネキは写真のヤヤマシオマネキも含めて全部で6種類いる。その中にはここ2～3年漫湖で見られるようになった、シモフリシオマネキとリュウキユウシオマネキという新顔も含まれる。図鑑によるとこの2種の分布域は石垣以南と記されているが、どうやら地球温暖化によって北限が北上してしまったようである。ところでこの暑さ、カニは夏バテしないのだろうか?

「第4回沖縄県子ども環境会議」を開催しました。

沖縄県内の湿地で活動する子どもたちが交流をはかる「沖縄県子ども環境会議」も、今年で4回目を迎えました。今回は台風7号の影響で、宮古と石垣からの参加が見送られ、漫湖・久米島・喜如嘉の3団体だけでの開催となりました。

会議の初目はお互いの自己紹介のあと、各湿地の紹介を行いました。子どもたちの湿地紹介は、みんなに自慢したい生きもののお話が中心で、それぞれの湿地に住む生きものたちの様子がとても良く分かりました。それと同時に、みんなの「生きものが大好き」という気持ちがひしひしと伝わってきました。

短歌の五・七・五・七・七と違い、琉歌は八・八・八・六が基本形です。これに合わせ、鹿谷さんが示した5つのテーマから、それぞれキーワードをみんなで書き出していきます。はじめは身構えていた子どもたちも、高学年のリードもあり次第に言葉が出てくるようになり、1日目の会議が終わる頃には、積極的に意見を交えるようになっていました。



会議2日目の最終日、大会宣言文を決定する大詰めの会議は、朝から子どもたちの会議の様子を見学しようと、環境省那覇事務所の所長や豊見城市長、そのほかたくさん関係者が駆けつけた中行われました。

子どもたちはキーワードとしてあがった言葉の意味や響き、組み合わせについて最後の最後まで議論を重ね、一つの大会宣言文を決めました。今年の大会宣言文は以下の通りです。

「～きれいな風景 残していこう 自然いっぱい ウチナーの島～ 第4回沖縄県子ども環境会議大会宣言文

この大会宣言文は「ていんさぐぬ花」のメロディーにあわせて歌うことができます。今回この大会宣言文が、子どもたちの想いととも琉歌のメロディーによって、たくさんの人の心に届くことを願っています。



琉歌にのせた、みんなの想い。

「沖縄県子ども環境会議」では、各湿地の紹介や活動報告だけでなく、2日間による会議を通して大会宣言文をみんなで決めています。毎回子どもたちの熱い想いが詰まった素晴らしい宣言文になっていますが、今回はなんと、コーディネーターを務めた鹿谷麻タさんの提案で、琉歌に乗せた大会宣言文にみんなでチャレンジすることになりました。

■ 2013.7/1 — 2013.7/31

{ 漫湖で確認された野鳥 …………… 計 22 種 }

漫湖 寄鳥見鳥

漫湖で確認された鳥類一覧

7/7



1. キジバト	26.
2. アオサギ	27.
3. ダイサギ	28.
4. チュウサギ	29.
5. コサギ	30.
6. チュウシャクシギ	31.
7. ホウロクシギ	32.
8. アカアシシギ	33.
9. アオアシシギ	34.
10. キアシシギ	35.
11. コアジサシ	36.
12. クロハラアジサシ	37.
13. ミサゴ	38.
14. カワセミ	39.
15. リュウキュウツバメ	40.
16. シロガシラ	41.
17. ヒヨドリ	42.
18. メジロ	43.
19. イソヒヨドリ	44.
20. スズメ	45.
21. カワラバト(ドバト)※	46.
22. シマキンバラ※	47.
23.	48.
24.	49.
25.	50. ※は外来種

鳥の剥製と綺麗な死体。

昨年から、空いた時間を利用して鳥の標本をセンター職員で自作している。骨格については、多少死体が痛んでいたとしてもある程度標本としての価値を残すことができる。だが、剥製となるとそうはいかない。剥製を作るためには、それに耐えうる「綺麗な死体」の収集がまず重要で、それがまた大変困難な作業なのである。

以前の私なら、死体を見つけても目を背けるだけだった。しかし標本づくりをきっかけに、今は死体に対する抵抗も少しは和らぎ「綺麗な死体」がお宝のようにすら感じるようになった。人も変われば変わるものである。

※この観察記録は、毎月実施されている鳥獣保護区の定点カウントの記録と、センターでの観察記録を基にまとめたものです。